
お礼画面救済措置。

蒲公英

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お礼画面救済措置。

【Nコード】

N6165Z

【作者名】

蒲公英

【あらすじ】

web拍手のお礼画面の入れ替えに伴い、消えていく文章たちです。どこにも残してないので、こちらへアップさせていただこうかと。

「近くにいる人」(前書き)

これは「近くにいる人」シリーズからです。

「近くにいる人」

株式会社エア・トラッド・ジャパン社内。

「ども、いつもお世話になっております。山口肇です。頭も顔も良いです。え？自覚してるって、イヤなヤツですか？いや、他人に見せなきゃいいんですよ、簡単な話です。次にご紹介するのは、僕の妻です」

「はじめまして。野口亜佑美です。入籍して、戸籍名は山口ですが、旧姓で仕事をしています。あたしが居なければ、開発営業部は回らないと言われております…… あつたり前じゃない！抜け作揃いなんだから！次は、抜け作筆頭の、この人です」

「ただいまご紹介に預かりました、津田慧太です…… って、俺ってまだ抜け作筆頭だったんですか？もう、パパなのに！あ、写真見てください？ 暁って名前なんですけど、これが可愛いんですよ。で、母ちゃんがまた……」

「慧太っ！余計な事まで言わなくて良いっ！…… 失礼しました。津田の妻、瑞穂です。以前、エア・トラッドに勤務しておりました。他人様に事情の話せない事柄で退職致しましたが、今は穏やかに生活しております。次は、慧太の後輩君です」

「えーと、萩原慎つす。努力、嫌いです。座右の銘は「気楽に行こう」です。可愛い女の子、大好きです。できれば、足が綺麗な方がいいなあ、と…… おつとつと、睨まないでよ…… 短い髪、似合うよ？うん、機嫌取ってるんじゃないって」

「あ、すみません。坂本葉月と申します。エア・トラッドさんでは、派遣社員でした。皆さん、親切で大変お世話になりました。ところで、これにオチはあるんでしょうか？」

「ごめんなさい、ありません。」

「ちゃんちゃん」

「篠田姉弟」

埼玉県某所にて、姉夫婦の住まいに呼ばれた弟夫婦。

「いらつしゃーい。美緒ちゃん、よく来てくれたわねー」

「……俺もいるんだけど」

「あーはいはい。よく来たわね」

「棒読み」

「うるっさい男ねえ。やだやだ、小さい男は」

「小さいのは俺のせいじゃないっ！」

「誰が身長の話した？ヒガイモーソー」

「静音、そこまでにしとけ。龍太郎君、あがつてあがつて」

「すみません。お邪魔します。美緒ちゃんもほら」

「はい、お邪魔します。あ、静音さん、ケーキです。あと、お口に合わないかも知れないけど」

「あらーっ。おつまみ作ってきてくれたの？よく働く奥さんで、本当に龍みたいなチビにはもったいな……」

「刺すぞっ！」

「昭文、これ、何で食べるって言うの？手？」

「箸くらい、自分で出せばいいだろ。義兄さん、甘やかすとつけあがりますよ、この女」

「何ですってえ？あんた、美緒ちゃんに何もかも、やらせてるんじゃないでしょうね」

「いえ、そんなことないですっ！お風呂の掃除とか、してくれてますし。龍君は帰りが遅いし、あたし、一般職ですから」

「寝てるどころ起こしてでも、分担させるのよ。一緒に生活してる

「んだから、当然よ」

「美緒ちゃんは静音と違って、人に気遣いができるんです」

「龍君、ひどい。静音さんだって、ちゃんとあたしに気を遣ってくれてるよ」

「ま、いいから、乾杯しとこう。今、揚げ物が終わったから」

「誰が食べるんですか、こんなに！」

さて、どれが誰のセリフだか、おわかりになりますでしょうか。

「フツのクリスマス」

クリスマス・イブの晩、都内某マンションにて。

「暁くん、ただいまー」

「ぱぱ、たーいまー」

玄関まで出迎えに来た息子とは逆に、妻はキッチンでバタバタしている。

「やだっ！年末だっていうのに、もう帰って来た！」
やだっって何だ、やだっって。

今日早く帰ってくるために、無理したんだ。

ネクタイを外しながら居間に入り、そのまま寝室まで歩くと子供も一緒についてくる。

ベッドに座らせ、自分はパジャマに着替えた。

居間に戻ると、妻は食卓に料理を並べていた。

「慧太、暁くん抑えといて！最近手が届くのっ！」

普段なら子供を先に済ませ、大人は遅めにゆっくり食事しているのだ。

今日は一緒に食卓につくということらしい。

「はい。ママが怒るから、こっち来とこうねー」

少しだけ華やかな食卓に、三人分の食器が並んだ。

並んだだけで、結局一緒になんか食事はできないのだ。

「瑞穂、先に食っていいぞ。俺が暁くんの世話するから」

あーん、と口を開けさせながら、時々自分の口にも放り込む。

一緒に食卓についていることで、暁は上機嫌だ。

「うーん。クリスマス気分には遠いなあ」
結局、乳幼児のいる家ってのは、ドタバタなのである。

夫が子供を入浴させている間に妻が洗い物を済ませるのもいつものことで

そのまま寝かしつけようとすると

「まー」と拒否されるのも、普段と同じだ。

一歳児はクリスマスを楽しもうなんて、していない。

「おい、瑞穂。風呂入ってきちゃえよ」

子供と一緒にウトウトしてしまっている妻に声を掛ける。

冷蔵庫を開けた夫は、中にスパークリングワインを見つけて、
華奢なフルートグラスを持ち出した。

ツマミ、何かあるかな……お、イチゴ。

普段のパジャマで浴室から出てきた妻を、「お疲れさん」と労う。

テーブルの上は、ほんのささやかなクリスマス仕様だ。

小さな包みにかかったリボンは、金色。

「待って！私も私も！」

寝室からゴソゴソと出てきた包みが並び、グラスを合わせた。

「結局、普段の夜と変わらないねえ」

「つまり、これが一番幸せってことじゃない？」

顔を見合わせて、一緒に笑う。

そう、つまりこれが、一番幸せなのだ。

メリー・クリスマス。

「彼女の座る場所」

都内某マンション、玄関には革靴と華奢なブーツ。

「まったく、年末に生まれたなんて、キリストって庶民の敵？」

「生まれた日に文句言ってたって、キリストさんだって困るだろ。」

今日は早く帰れたんだから、いいじゃないか」

「明日売り締めなのに、萩原のバカがまだ売上チェックしてない！」

「チェックくらい、やってやれよ。あいつもそろそろ、一人前だろ」

「甘やかすとつけ上がる程度には、まだバカなのよ」

うちの奥さんは有能で、有能な分他人に容赦ない。

デパ地下で一緒に買った、普段より値の張る夕食は

手早く皿に盛り付けられていく。

「洗濯とお風呂を先にして、ゆっくり夕食にしない？」

提案に従って、手分けして作業を開始する。

食卓の上の分不相応に豪華な花は、彼女のサークル活動によるもの。

安心してアルコールが入れられる状態になって、やっと席に着く。

「亜佑美、また化粧したの？」

「眉くらい描くわよ。肇君、髪乾かさないの？」

「面倒だから、いいや。寝るまでに乾く」

髪を無造作にクリップで留め、普段のグラスにビールを注ぐ奥さん。ちよつと豪華なサラダと七面鳥の料理には、何故か赤飯のおにぎり。

「……なんで赤飯？」

「好きなのよ。それにキリストさんのお誕生祝いじゃない」

外でしっかり者の奥さんは、家の中では意外と突拍子もない。

かちん、とグラスを合わせる。

「こんな風にクリスマスをふたりって、初めてだね」

同じ会社の俺と奥さんは、年末の慌しさを共有し

同僚たちと残業帰りに、居酒屋で迎えるクリスマスを繰り返していた。

外は雨が降り出したのかも知れない。

ふっと訪れた沈黙に、奥さんは「天使が通った」と笑った。

「こんな沈黙のことを、天使が通ったって言うのよ」

「本物の天使を迎えようか」

食卓の上で手を握ると、くすつと笑う。

「先に、洗い物を済ませちゃおう」

同意の確認が要らないプランは、十カ月後の期待を込めて。

天使が舞い降りてきますように。

メリー・クリスマス！

「あしたのクリスマス」

都内某アパート、部屋は乱雑。

「お掃除しといてって言ったのにー」

「昨日、掃除機はかけたよ」

「掃除機をかける前に、片付けなさいっ！」

梅の花みたいに微笑んで、控えめな態度つてのは、どこへやら。素のはーちゃんは、パンチの効いた女だ。

「クリスマスに、なんでお鍋？」

「俺が支度できるもの、他にあると思った？」

はーちゃんは溜息を吐く。

「慎ちゃんって……」

「ん？イイオトコ？」

「言つてない」

「これね、気に入らなかつたら、ごめん」

はーちゃんが出したのは、リボンのついたネクタイの箱。

「ネクタイって、『あなたに首つたけ』だよな？」

「え？そうなの？」

お愛想でいいから、そうだと言って欲しい。

俺からは、小さなペンダント。

はーちゃんの細い首には、細いチェーンが似合う。

去年の今頃、はーちゃんはまだ壊れてて、

俺は俺で何か勘違いしてて、しつちやかめっちゃかだった。きつたない部屋だけど、向かい側にはーちゃんが座つてて

もう、あんなに辛そうな顔は見なくてもいいんだ。

はーちゃんの表情が、もう隠れることのないものでありますように。

クリスチャンじゃないけど、好きな人と一緒に

何かのお祝いができるって、いいね。

メリー・クリスマス

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6165z/>

お礼画面救済措置。

2012年1月14日15時48分発行